

くらしナビ ライフスタイル

介護 高齢者の性に向き合う

東京都内に本社を置く高齢者介護サービス事業者が施設にアダルトグッズを導入した。利用者から職員へのセクシュアルハラスメントが問題となり、国が対応に乗り出す中、「高齢者の性」に向き合う取り組みが業界に一石を投じている。



●アダルトグッズで

入浴に特化したデイサービスを全国展開する介護事業者「いきいきららふ」(東京都台東区)は、今春から順次、各店舗で自営行為用のアダルトグッズの販売を始めた。自宅に持ち帰り、自分で性欲を処理してもらう。職員は性的介助はしない。

●利用者がセクハラ

「導入にはもちろん賛否があった。でも私はいやらしいものと捉えてはいない。生き物として性欲は当たり前にあるものだから」。店長の上野輝美さん(49)は理解を示す。介護の現場で働いて13年以上。かつて別会社のデイサービスで働いていたが、利用者からのセクハラは日常茶飯事だった。ある90代男性は入浴介助中、胸元に手を伸ばしてきた。別の高齢男性は四六時中、性的な話を繰り返した。入浴中に「(男性器の)皮をむいて中まできれいにして」

⑤デイサービスの利用者を誘導する介護職員(右) ⑥デイサービスの売店で販売されるアダルトグッズ。埼玉県川口市のいきいきららふSPA川口WEST店で



「介護サービスで性欲を抑えつづけることはできないが、できるだけ職員がトラブルに直面しないようにする必要がある」。アダルトグッズ導入の狙いについて、取締役の福住尚将さん(39)は語る。高齢者が自らの性欲に向き合い、自分で満たしてもらおうことで、セクハラ防止になるのではないかと。4月下旬、店舗

と要望してくる利用者も。四肢にまひがあるので洗っていても、性器を硬くし「もっと洗って」と求めるようになり、特定のスタッフを指名するようにもなった。「ケアかどうかの線引きが難しいケースも多い」と打ち明ける。利用者にはセクハラという認識はないのだから。だが年を重ねても性欲は衰えないものだと分かった。こうした場面に直面しても笑って受け流してきたが、誰にも相談できずに抱え込み、退職するスタッフも多かった。勇気を出して上司に報告しても「そんなの当たり前だから」とまともに取り合ってくれない職場環境にあったと振り返る。

責任者を集めた研修会で理解を求めると、「性欲をセルフコントロールすることで自信にもつながるのでは」といった意見や、「販売時に卑猥な言葉をかけられるかも」「利用者の家族の反応が心配だ」といった不安の声も上がった。だが、共通するのは「性欲は誰にとっても当たり前前の欲求だ」という反応だった。同社と協働で取り組みを進めるアダルトグッズの製造販売会社「TENGA」(東京都港区)の調査では、60代男性の52.7%は「1カ月間に1回以上のペースで自営行為をしている」。2〜3カ月間に1回程度「半年に1回程度」を含めると85%となる。一方で、高齢者の性はタブー視されや

対応苦しむ職員 3割セクハラ被害



篠崎良勝准教授

介護職員の労働組合「日本介護クラフトユニオン」(組合員数約7万8000人)が組合員に今春実施した調査では、回答者2411人の3割がセクハラ、7割が暴力や暴言などの被害を受けた経験があった。こうした問題を受け、厚生労働省は事業者向けの対応マニュアルを年度内に作成し、防止策や被害に遭った際の対応策も盛り込む方針だ。介護職の周辺に存在する諸問題「ケア・ハラスメント」に詳しい城西国際大福祉総合学部の篠崎良勝准教授(介護労働学)によると、利用者から性的嫌がらせに遭っても相談できる窓口が少なく、対応に苦しみ、ストレスを抱える職員も多い。一方で介護労働者の3割が「性生活の充実によって利用者のQOLに差が

出してくる」と考えており、利用者の性的欲求にどのように関わるべきか日々悩みながら働いているという。性的嫌がらせや暴力などのハラスメントは①快楽への欲求②孤独感③職員に対するからかい——を背景に起きており、アダルトグッズ導入の取り組みは①を解消するアプローチとして評価に値するといふ。一方で②は行為の背景を分析して解決するのが望ましく、③も利用者の自覚のあるなしによる。性的欲求は安心、自尊心、快楽の三つを基礎とする性質があり、それぞれが混在して表れることも多く、どこまでその欲求に関わるかの具体的な線引きは難しい。篠崎准教授は「介護の現場でどのような問題が起き、介護従事者がどのような思いを抱えているのかを知ることも大切だ」と指摘し、利用者側に消費者教育を受けてもらう必要性を訴える。【矢澤秀範、写真も】

子守の夏

戦後まもない頃に小学生だった私の、夏休みの思い出です。親から渡された電車をしっかり握りしめ、2時間ほどかけ親戚の家に子守に行くのが私の役目でした。親戚といっても父の勤め先の社長の家なので、社長のお声は絶対でした。

6歳下の超わがままな一人娘を泊まり込みで世話するのは、10歳前後の少女にかなりの忍耐が必要。つらい事もたくさんありました。でも兄弟の多くが貧しかった私の家と違う、裕福な家

女の気持ち

2018.8.27

での1カ月間は、好奇心を満たしてくれる貴重な体験でした。家に一歩入ると「これぞ都会」という匂いが漂っていました。後にそれは都市ガス独特の匂いと知り納得でした。その頃、私の家ではマキと炭で煮炊きしていたのです。

門をくぐるとお手伝いさんが迎えてくれ、叔母さんにあいさつして子守に入ります。私の大好きな漫画「サザエさん」を読み聞かせ、庭で砂遊びをして、飽きると隅田川まで散歩。一日はあっという間です。

ある日は有名デパートへお供

に行き、特別食堂で初めて洋食を食べました。震える手でナイフとフォークを持ち、お皿をカタカタ鳴らし悪戦苦闘。しばらく洋食が大嫌いになりました。8月が終わりに近づくと「ご苦労さま」と封筒を渡され任務終了。離れていた母に無性に会いたくて家路を急ぎます。残り数日が私の本当の夏休みです。

結婚の際、母から預金通帳を渡されました。最初に記帳されていたのはあの時の封筒の中身だと知らされ、感無量でした。

東京都八王子市 関口 京子 無職・79歳

食卓の一品

回鍋肉(ホイコーロー)

1人前 325 ㎍ 和肥、塩分 1.9 ㍉

《主な材料》(2人分) 豚肩ロース薄切り肉150㍉▽A(酒・ショウガ汁各大さじ1/2、塩少々)▽キャベツ200㍉▽長ネギ1本▽赤唐辛子1本▽サラダ油大さじ1 1/2▽B(スープのもと小さじ1/4、水大さじ2、酒大さじ1、テンメンジャン大さじ2、塩少々)

《作り方》

①豚肉は3㍉の幅に切り、Aを混ぜて5分ほどおく。

- ②キャベツは芯を除き、4㍉角に切る。ネギは5㍉の幅の斜め切りにする。唐辛子は種を除いて斜め薄切りにする。Bは合わせておく。
③中華鍋を強火で熱し、油を広げて肉をほぐすように入れる。30秒ほどそのまましてから混ぜて炒める。
④キャベツ、ネギ、唐辛子を加えて全体を大きく混ぜる。
⑤Bを加えて混ぜる。

ベターホームのお料理教室

取り上げてほしい話題やテーマをお寄せください。郵便は〒100-8051(住所不要)毎日新聞くらしナビ「くらし」係へ。メールはkurashi@mainichi.co.jpへ